

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200051		
法人名	セレンディップ株式会社		
事業所名	小規模多機能型居宅介護施設はなえみ		
所在地	関中市二丁目181番地		
自己評価作成日	平成27年11月10日	評価結果市町村受理日	平成28年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_021_kani=true&JigyosyoCd=2190200051-00&PrefCd=21&VersionCd=021
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小規模多機能型居宅介護施設という特徴を生かし利用者様とご家族様にとって利用しやすいようにサービスを組み合わせ柔軟対応しています。施設内の生活におきましては、ご利用者様と職員が家庭的な雰囲気でも過ごし、身体機能の維持を図るためにも自分で行う事は自分で行っていただいたり、リハビリなど必要のある人は理学療法士によるリハビリも行い現場でも取り入れています。行事におきましても、準備段階からご利用者様も交え、皆で作品や農作物や、おやつ、ケーキなどを作り、利用者様と職員の皆で楽しみ喜びを分かち合っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者・職員は「利用者の笑顔を増やしていこう」という気持ちで、一丸となって取り組んでいる。個別のサービスを柔軟に行い、眠れない人には、時間と場所を特定せず、眠りたい時に眠れる場を柔軟に提供し、体調を整え、食欲増進につなげている。常勤看護師と連携し、利用者の体調管理を行ない、さらに、理学療法士によるリハビリで、身体機能を維持しながら、自立した生活を支えている。また、少しでも地域の人々と関われるよう、月に1度は、喫茶や文化会館などへ出かける日を設けている。外出時の話題が増えることで、その人らしい在宅生活が継続できるように支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらいが 3. 職員1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内やリビング内に理念を掲げ常に朝の朝礼時に注意してご利用者様と職員が笑顔でいられるよう努力しています。そのために利用者様の状態把握等に努めて情報を集積し分析しています。最小限の介助を行い身体機能の維持改善を念頭におき支援させて頂いています。	理念は、見やすい位置に掲げ、職員間で共有をしている。職員は、利用者の身体機能の維持、向上を目指して取り組み、馴染みの生活を継続しながら、その人らしく、安心な暮らしができるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り地域の情報を回覧板を回して頂く事により知ることが出来ています。また、日中の利用時には施設の外で活動する事により近所の方の目に触れ、出来るだけコミュニケーションができるよう配慮しています。(季節によっては施設外の行動は制限されます)	自治会の一員として、地域の情報を回覧板で把握している。事業所は、地域ボランティア団体の芸能や、特技を披露できる場を提供することで、利用者の楽しみにも繋げている。近隣からは、野菜の差し入れなどがあり、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族へは様々な方法を提案し、提案内容も家族に負担がかからないような方法としています。提案し実行した結果を必ず報告しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	なかなか定期的な開催が出来ていないが運営推進会議を開催の際には民生委員や民生委員会長、市役所職員、利用者家族代表などに参加していただき、意見交換をしている。	運営推進会議は、年に2回開催している。委員には、行政はじめ、地域の要職者が名を連ねている。事業運営の実情を報告し、地域の独居世帯や高齢者が抱える課題などを話し合い、会議の機能を活かしながら、地域福祉の向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点など高齢福祉課・包括支援センターに直接聞きながら運営している。また、現在直面している問題や今後施設運営に対する不安などは行政の担当者と直接話し検討しています。	日頃から、市の担当者に、事業所の実情を伝えている。家族からの問い合わせや、空室情報などで相談をし、協力関係ができています。運営推進会議でも、福祉課職員と地域包括支援センター職員から、様々な情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束をするほどの利用者様はご利用になっていないが、施設内を徘徊などされる方は常に職員同士連携をとり利用者様に負担がないように配慮しています。赤外線センサーなども駆使し介護するようにしています。	全職員で、利用者の身体面、心理面、環境面を見直し、検討を行い、アイデアを出し合っ、身体拘束につながらないケアに取り組んでいる。言葉による拘束についても学び、正しく理解している。ベッドからの落下予防のため、センサーマットを備えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	少人数の施設なので異変には気が付きやすいが、特に入浴の際には身体確認等入浴担当者が毎日行い、異常など確認しています。このことはそれぞれの職員が注意を図ることにより虐待の抑止力になっていると考えます。		

岐阜県 小規模多機能居宅介護施設はなえみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については資料やマニュアルなどを作成し配置しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明させていただきますが、完全に理解はできないと思いますので、実際に利用してから再度要望や不満な点はないか常に聞くようにし疑問点などを再確認するようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	比較的頻繁に家族に意見を聞くようにしています。特に送迎の際にはご家族様に声掛けなど行い情報を聴取し運営に生かしています。	家族の要望や意見は、送迎時に聞いている。通いと訪問の利用条件、サービスの変更、夜間の急な連絡方法などについての要望があり、できることから改善し、運営に反映させている。	事業所が提供するサービス内容や、本人の様子が、家族に分かりやすく伝わり、理解してもらえるような、便り、通信など、情報の発信の工夫に期待をしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に様々な職員に声かけを行うようにしています。実際に聞かれる情報は他の職員と一致しているか、再度情報を集めるようにし意見が特定の職員からだけのものではないか確認し実行するようにしています。	定期的な職員会議や日常業務の中で、意見や提案を話し合っている。管理者は、職員の勤務時間の調整、必要品の購入などの意見を取り入れながら、精神面もサポートし、働きがいのある職場づくりに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職種により給与水準などを変化させているほか、職員個人の能力をいかした行事など推奨しています。また、職員からの提案があった行事については、全て出来るよう配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などの資料が届いた場合は、職員に連絡し希望の場合は受講できるように配慮しています。ただ、勤務表ができた後、希望の講義を聞きたい場合は職員間で勤務交代ができるよう日ごろから呼びかけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表は地域以外の他の施設の方とも直接交流をし意見交換をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期利用後の行動に変化はないかご家族に聞くようにしています。いつもと違う行動や言動を確認し施設での環境の変化や対応の不備によりおこるいつもと違う行動がないか常にチェックし家族と情報交換をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設で行える事、行えない事などはっきり伝え、その中でご家族が抱えている問題を当施設で解決できるか常に試行錯誤し情報を集めながら段階的に解決し信頼が得られるように心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設だけに抱え込まず、民間サービスやコミュニティサポートサービスなど活用し、また利用者様や家族様にもその情報をお渡しし問題解決に取り組んでいます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場において、職員が常に行うのではなく、利用者様とともに何事も準備をしたり手伝ったりしていただいています。くつろいでもらったり家族のように家事など手伝っていただいたりしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の変化があった時などは訪問や電話などして家族の思いや悩みを伺うようにしています。相談し実行した内容等の効果など聞き試行錯誤しながら利用者様を支えていけるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達など話ができるよう手配や配慮したり、本人の予定を狂わせるような利用はさせず、本人の要望を聞き家族と相談しながら利用していただいています。	利用者が、友人や知人に会えるように、場面づくりを支援している。馴染みの店へ買い物に出かけたり、訪問者には、次回につながるよう、雰囲気づくりに努めている。送迎の行き帰りには、なじみの景色に触れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ作りや、農業作業で作物を作り収穫したり、さらに他の利用者様が調理するなど収穫の喜びや調理した喜びなど皆が支えあいつながっている介護関係を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援が終了した後も現状を聞くなどを行い関係を保つようにしています。相談などにものり、状況にあった情報や支援の方法を提供させていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様やご家族様には意見や要望を聞き意向に合わせて利用日や宿泊日などを決定するようにしている。利用者様の思いとご家族との思いに違いが生じた場合は出来るだけ双方歩み寄るような形で利用できるよう工夫し利用者様とご家族の関係が崩れないよう配慮しています。	日常会話やケアの場面で、本人の思いを聴いている。眠れない人には、日々の暮らしの中から、原因を探り、解決策につなげている。利用者一人ひとりの表情や反応を見ながら、その人らしい暮らしができるように支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報用紙ばかりなく、利用開始後からは積極的に関わりを持つ事により情報にはない過去の生活歴などを含めた状況を聞き出し、宿泊なども利用する事により1日の生活状況も出来るだけ理解するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様それぞれの能力を把握するように心掛け、能力の維持向上に努めている。出来るだけ利用者様の生活のペースを大切にしながら無理な誘導は行わないようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングばかりでなく、常に家族や本人に聞くようにしています。2ヶ月に1回のモニタリングをするようにしていますが、変化に応じて変更するようにしています。	毎月、モニタリングを行い、利用者の状態を把握し、本人・家族の意向を確認して、介護計画を作成している。また、かかりつけ医と協力医の意見も取り入れ、状態の変化に応じて、柔軟に見直し、自分らしい暮らしができるよう、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別には作成していないが、職員間で連絡が取れるよう連絡帳などを作成し、様々な事を記載し情報を共有できるように取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通常は定期利用が主であるが、利用者様の状況やご家族の状況に合わせて利用日や利用時間を変化させています。連泊の利用や通いの延長、急な宿泊に対応しています。常に家族等には利用方法など確認をしています。		

岐阜県 小規模多機能居宅介護施設はなえみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設のためのサービスにとどまることなくインフォーマルな資源も活用し支援させていただく事を心掛けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様のかかりつけ医を事前に把握し緊急時など素早い対応ができるように事前に病院名と診察券のID番号や診療科、既往歴などをまとめた用紙に記入していただき対応するようにしています。直接主治医に相談し情報や注意事項、要望を伝える事もしています。	利用者それぞれが、かかりつけ医を継続し、歯科医は2か月に1回の往診体制がある。かかりつけ医への受診は、家族が基本であるが、都合によっては、職員が代行し、既往歴や服薬、診療科などの情報を、関係者で共有し、緊急時にも備えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に数回1日の終わりにはケア会議を行い情報のやり取りをするように心掛けいつでも相談ができるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時から頻繁に面会し退院後もスムーズに利用できるように、各病院の相談員や看護師など担当部署に出向き情報交換を行うようにしています。また退院後利用状況など現状を簡単に報告することもしています。施設利用状況をお伝えしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた家族との話し合いをするように、同意書など取るようにしています。また、生命危機の時などは施設での対応か病院で対応した方が良いかも情報をいただくようにしています。	重度化・終末期についての対応は、事業所で可能な医療行為までとしている。契約時に、家族と同意書を交わし、段階に応じて、主治医と家族で話し合い、本人にとって、最善な方法が選択できるように支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置のみでなく、連絡体制や連絡順などマニュアルを作成しています。利用者様への迅速な対応とれるように簡単に記載し、その通りに行動し読むことにより連絡は完了する仕組みになっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には地域に開放するなど、行政からの依頼で引き受けています。また、施設に於いての避難も玄関は開放して避難しやすい環境になっています。ベッドのままでも避難できるようベッドにはキャスター付きベッドのまま外へま出られるように工夫してあります。	年2回の災害訓練を行っている。段差がない玄関から、キャスター付きベッドでの脱出訓練も行っている。近隣とは、災害時の相互協力で連携ができ、地域へは、災害時の避難場所として、その役割を発信している。備蓄も確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への言葉かけは十分に配慮して行うようにしています。ただ、利用者様と職員という関係で壁を作ってしまうことのないような関わり方となっています。	耳の遠い人には、ハンドサインや、筆談等でコミュニケーションを図ったり、耳元で話しかけるよう努めている。トイレ利用時には、鈴やタンバリンを鳴らして、職員にさりげなく知らせられるよう工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思い込みで判断することなく、全ての事柄に対して常に対応を行う前と対応を行った後の利用者様の反応を観察し利用者様の希望に沿うように支援させていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内の業務を最優先することなく、行事やレクなどは必ず利用者様に参加不参加など希望を確認し、行うようにしています。また、体調管理も行い体調なども参加不参加の相談材料とさせていただきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさが出るように服装の制限や指定などは行わず、着たいものを着てきて頂いています。身だしなみも必ずチェックするようにし特に入浴後やトイレ後等は服装が乱れやすいのでチェックするようにしています。さりげなく直す事も忘れないようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養の関係もあるので食事が好きなもので偏らないように配慮しているが、アレルギーのある食材はもちろん提供しないように注意して配膳するようにしています。また嫌いな食材に関しては別のメニューにして出来るだけたくさん食べられるような配慮をしています。	畑で採れた野菜も取り入れ、ご飯と味噌汁を、事業所で作っている。副食は、栄養バランスとアレルギーに配慮をしながらも、利用者の食欲を満たせるよう工夫をしている。おやつホットケーキや焼きそば作りなどは、職員と利用者で、一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事については必ず摂取量などチェックしています。食量など減った場合は、家族とも相談し食事状況把握に努めるようにしています。食材の加工も出来るだけ食べやすいように工夫するが自宅での負担も考え徐々に加工なしでも食べられるように段階的に加工も変化させています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行うようにし支援をさせてもらっています。希望の方には歯科医に往診に来ていただくなど専門の方からの情報も頂くようにしています。		

岐阜県 小規模多機能居宅介護施設はなえみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの失敗によることのショックがないよう、その人に合わせたトイレ誘導を行うようにしています。またトイレの場所も分かりやすいよう張り紙などして分かりやすくし、初めての利用の方の場合は、こまめに聞くようにしています。定期的な声掛けも実施しています	個々の排泄パターンに合わせたトイレ誘導で、失敗を減らせるよう、支援をしている。トイレに間に合わないケースでは、パッドにリハビリパンツを組み合わせ、家族の負担も減らし、本人が気持ちよく過ごせるよう、アドバイスを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に関してはチェック表を作成しチェックするようにし利用者様にあった対応をするようにしています。看護師によるチェックも怠らないようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間はある程度時間(午前中と午後の早い時間)が決められているが、入浴の順番や介助や援助の方法など出来るだけ本人の希望に沿うように配慮しています。入浴剤など入れてお風呂の感じを演出するとともに、拒否される方の場合には足浴や清拭なども実施するなど配慮しています。	入浴の回数や順番、洗い方はなどは、本人の希望に応じている。香りの良い入浴剤や、柚子湯、菖蒲湯など、季節を味わい、心地良い温泉気分で、リラックスできるよう工夫している。拒む人には、無理強いせず、清拭やシャワー浴、足浴等で、清潔を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良く寝られるよう、その人に応じた環境調整をしています。自宅で使用している枕を持って来て頂き出来るだけ寝やすい環境を作っています。日中の休息に関してもソファーマリクラインング式を取り入れるなど休みやすい環境を整えるよう努力しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師などを中心に薬剤情報などを利用し、常に薬剤について管理し看護職員以外の職員が間違える事のないよう分かりやすく管理できるよう工夫している。薬剤の変更も常に情報を頂くようにし声かけを怠らないようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の得意なものや好きな事を行うようにしています。おやつ作り、農業やカラオケ、運動などが主流となり日々体を動かすことや楽に楽しめることなど工夫しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や買い物などに外出するように計画し実行している。また、自宅においても施設としても近所の方と交流を持つようにし外出時など協力していただくようにしています。	文化会館で開催する華道展や絵画展に出かけている。事業所が一部、費用を負担し、月に2度、喫茶の日を設け、職員と共に出かけている。季節の花見や紅葉狩り、地元の祭りなど、外出の機会を多く設けている。	

岐阜県 小規模多機能居宅介護施設はなえみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては、自宅から持ってくることは禁止であるが、買い物の際には施設が立替えて買い物など行い、自分の好きなものなど購入できるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から直接お手紙がある場合もあるので、内容やまたその内容がご家族様以外に見られないように配慮しながら要望に応えるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんど毎日掃除をするように清潔を保つようにしています。その他にも季節などが感じられるような置物や掲示物など配置しています。室内には観葉植物などおく事により落ち着いた雰囲気を出すように心掛けています。室温などにも気を配り調整するようにしています。	広いリビングで、レクリエーションを行ったり、作品作りを行い、壁には、利用者の手作り作品を飾っている。共用の間は、静かな環境で、不快な匂いがない。仲良し同士でくつろげるソファを配置し、居心地のよい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	泊まりの部屋なども開放する事により、一人の時間が作れるよう配慮しています。テレビも2台配置する事により偏った番組ばかり見ることなく過ごす事が出来るよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	宿泊室には施設の寝具が常備してあるが、使い慣れた枕など使用してもらうように利用者様と家族様には宿泊前には声かけをするようにしています。	長期宿泊の人は、家庭との切り離し感を感じないよう、荷物の持ち込みを増やさずに、くつろげるよう工夫している。利用者の排泄リズムや体調によっては、トイレに近い居室を提供し、安心して過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の能力を維持向上する意味でも施設内は自宅に似たような環境作りに配慮している。家庭で能力を発揮出来るような環境になるよう配慮をし、身体機能の維持向上に関しては理学療法士によるリハビリなども希望者には実施している。		